



かいづ いちろう

# 海津 一郎

教授

## 所属

教育学部・社会科専修、  
紀州経済史文化史研究所

## 出身地

東京都杉並区

## 出身校

- 東京学芸大学
- 東京都立大学大学院

## 趣味

散歩、飲み会

## 研究テーマ（専門分野）

日本中世史、園場整備事業

## 研究概要

日本中世の荘園村落を専門としており、歴史的景観の復元と活用に取り組む。1999-2018かつらぎ町天野盆地の園場整備事業検証に取り組み（荘園遺跡調査の実施）、2013-有田川町の「重要文化的景観」の指定のための調査委員会をつとめた（水田遺跡調査の実施）。また、単純な（表層的時限的な）地域活性化や地域振興ではなく、歴史学的な視点とストーリー性をともなった、地域資源の利活用について提案している。

## 主な研究業績（論文や著書）

著書：『中世の変革と徳政』

『楠木正成と悪党』

『新 神風と悪党の世紀』

『蒙古襲来 対外戦争の社会史』

『わかやまを学ぶ—紀州地域学 初歩の初歩』

（「序 反逆者たちの国」分担）

編著：『中世都市根来寺と紀州惣国』

『中世終焉 秀吉の太田城水攻め』

『きのくに歴史探見』

『世界史とつながる日本史—紀伊半島からの視座—』

## メッセージ

歴史学は所詮後衛の学問で指導的立場には出られません、基盤として大切と考えており、連携できる局面があればと思います。

紀伊半島は中世まで、惣国とよばれた自治共和国であり、中国寧波を本拠とする倭寇共和国（海洋国家）の一部であり、いまもその時代の遺産が此処各所に眠っている。が、だれもそれを活用していないのは（東京出身の異国人の眼には）不思議なことだ。